

環境省ナッジ事業の初年度の成果

(2) デロイトトーマツコンサルティング（同）の取組



前年度の成果と本年度の実施計画

平成30年度低炭素型の行動変容を促す情報発信(ナッジ)等による家庭等の自発的対策推進事業
～家電・自動車等利用に関するナッジを活用した低炭素型行動変容モデルの構築～

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社

2018年5月24日

本事業の実施概要

各実証に適用可能な方法論構築を目指す「仮説構築」、サービスモデル構築を目指す「実証」及びその成果活用のための「ガイドブック策定」等に一体的に取り組んでいる

本事業の全体像

背景

- 家庭全体のCO2排出量のうち電力とガソリンの割合は約7割
- 1990年度と比較して増加しており、日本の2030年度までのCO2削減目標の達成には更なる対策が必要

目的

- 家電と自動車利用時のCO2削減を可能とする行動科学を活用した低炭素型行動変容モデルを構築し、成果活用を推進

仮説構築

仮説構築1

- 家の中の省エネバリアとその解決方法の仮説を構築

仮説構築2

- 国内外の先進事例を調査・考察し、各ラボへ適用可能な方法論の仮説を構築

仮説構築3

- 自動車メーカーの協力を得て燃費スコアリングモデル/ナッジ手法の仮説を構築

input

input

input

実証(ラボ)



家庭の電力消費を対象とした行動変容モデルの構築

- サービス提供主体者: 小売電気事業者

ラボ1 ▶ HERs*郵送実証(6万世帯対象)

ラボ2 ▶ スマホアプリの情報配信実証(2千世帯対象)



ラボ5

家電・自動車等利用に関する行動変容モデルの構築



自動車の燃料消費を対象とした行動変容モデルの構築

- サービス提供主体者: 自動車関連事業者

ラボ4 ▶ 燃費スコアリングモデルの構築

▶ スマホアプリ等のエコドライブ情報配信実証(約2千名対象の予定)

output

成果活用

ガイドブック策定

- 本事業の調査結果や実証成果を、社会実装するための支援ツールとして「ガイドブック」策定を行う

* HERs: Home Energy Reports

本事業は、企業・大学・自治体が連携したコンソーシアム体制で臨んでおり、8つの実施項目に対して各プレイヤーの専門領域を踏まえて役割を分担している

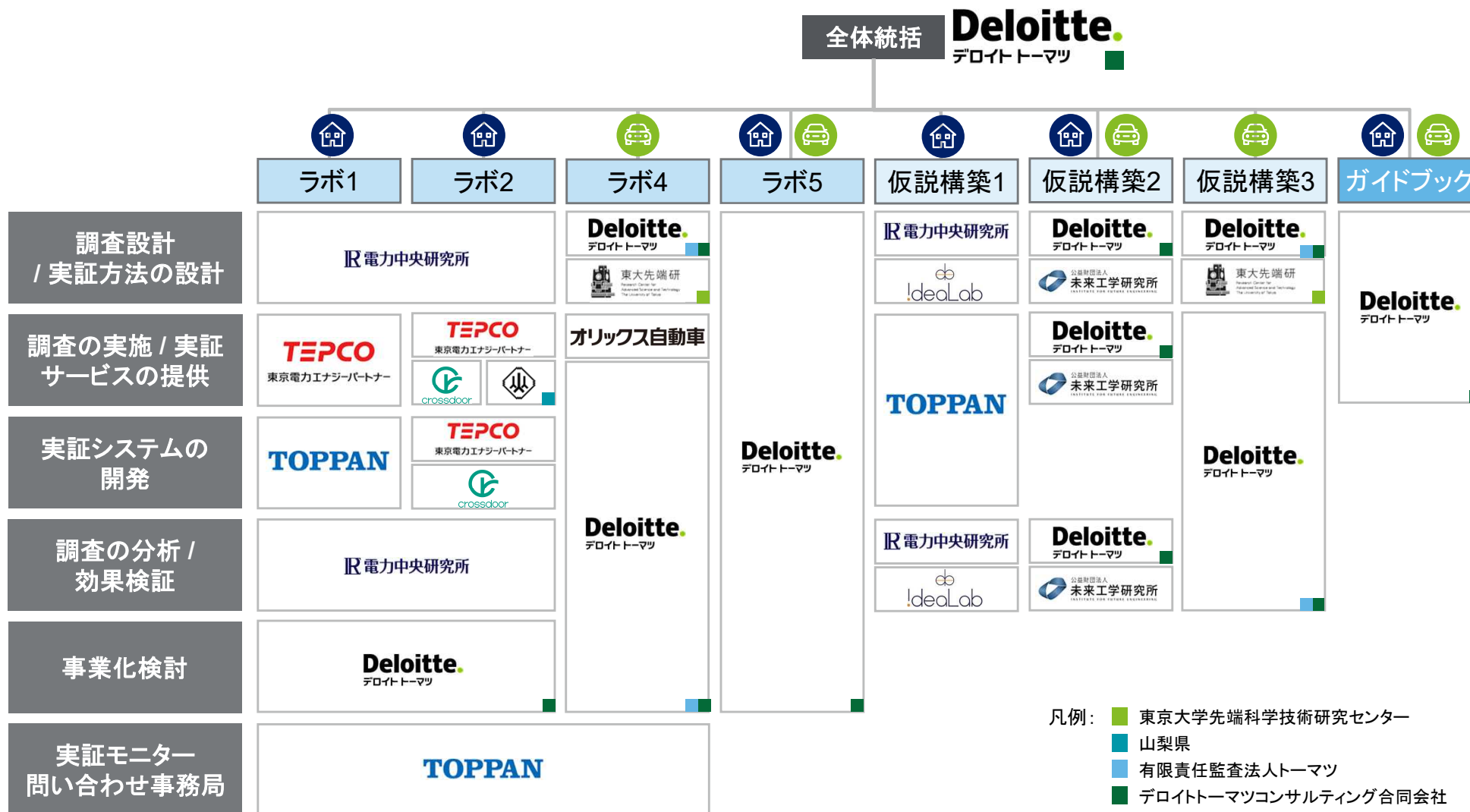
本事業の実施体制



家庭の電力消費を対象とした実施項目



自動車の燃料消費を対象とした実施項目



ラボ1～3については家電利用を対象に、ラボ4については自動車の運転を対象として低炭素型行動変容モデルの構築に向けた実証(ラボ4はプレ実証)を行っている

各ラボの実施概要



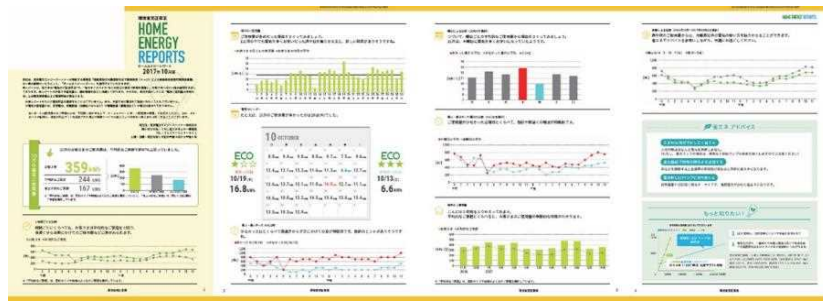
家庭の電力消費を対象とした実施項目



自動車の燃料消費を対象とした実施項目

ラボ1 HER実証

対象者:東電EPの顧客(介入群:約4万世帯、対照群:約2万世帯)
介入手法:HER×ナッジ



ラボ2 スマホアプリ実証

対象者:東電EPの顧客(介入群:約2千世帯、比較群:約2千世帯)
介入手法:スマートフォンアプリ×ナッジ



ラボ3 ハウスメーカー実証

対象者:新築・持ち家に住む世帯(【夏期】介入群:約3百世帯、対照群:約3百世帯、【冬期】介入群:約6百世帯、対照群:約6百世帯)
介入手法:エコライフアドバイス×ナッジ



ラボ4 燃費モデルの構築とプレ実証

※プレ実証につき参考情報
対象者:一般ドライバー(介入群:50名、対照群:25名)



※平成29年度で終了

結果と考察

ラボ1の成果

本実証では、スマートメータから取得した30分ごとの電力使用量データを用いたHERの効果を検証中である

HERの概要

Sample



月量比較をした上で、時刻別傾向から理由探索

日別比較からの傾向把握

曜日別比較からの傾向把握

年間傾向を確認した上で、季節のアドバイスへ

